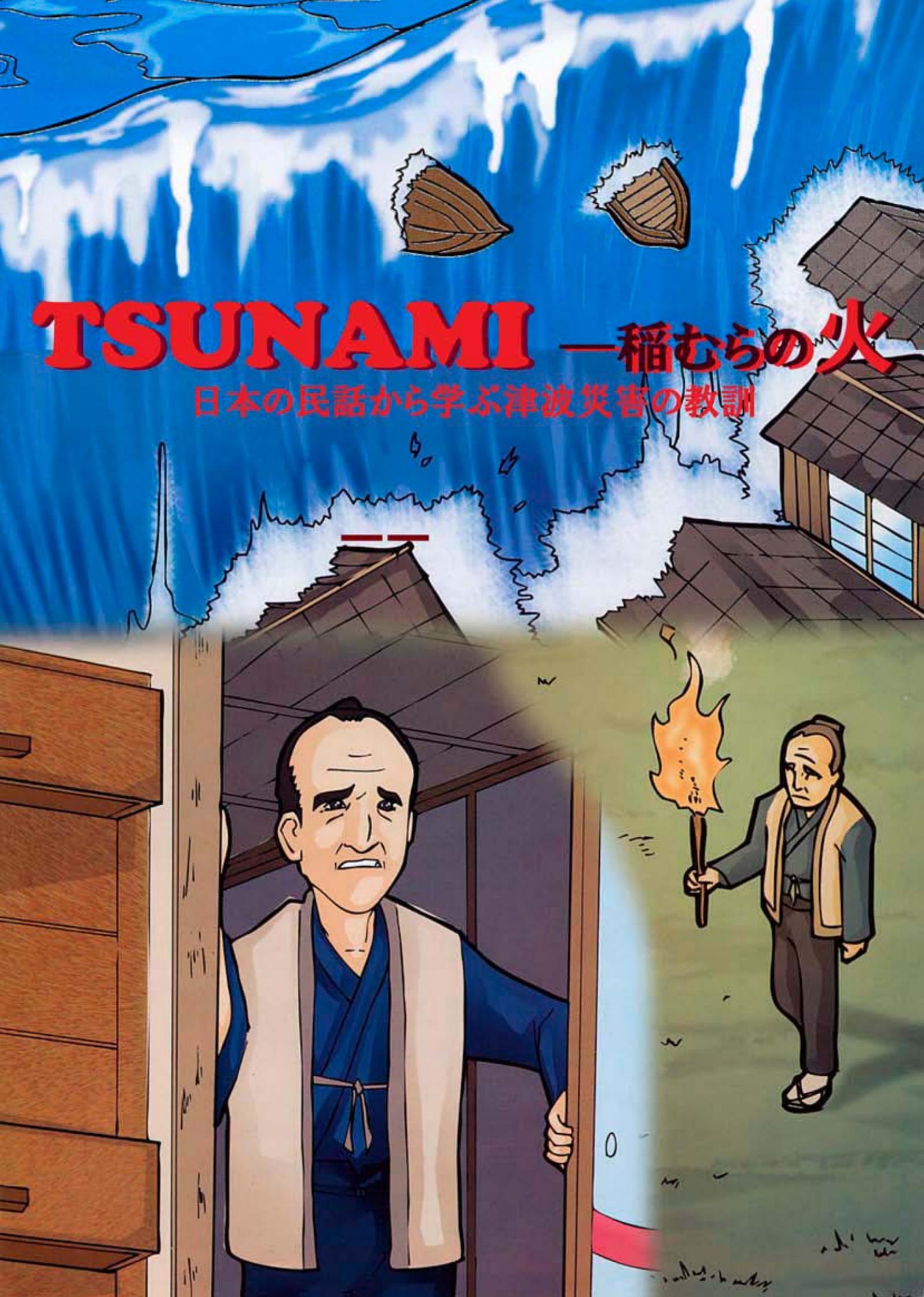


TSUNAMI — 稲むらの火

日本の民話から学ぶ津波災害の教訓



み ぞ う 未曾有の大災害 —インド洋津波災害（2004年12月26日発生）—

2004年12月26日、大きな津波がインド洋に面する国々
インドネシア、タイ、スリランカ、マレーシア、インドを
襲いました。

この津波によって20万人もの人が亡くなり、それぞれの国で
は家や建物、道路が壊れたり、電気や水道が止まるなど、
たいへん多くの被害を受けました。

現在、被災地では懸命な復興活動を行い、少しずつもとの
状態に戻りつつあります。それと同時に、津波による被害を
少しでも小さくするためのさまざまな取り組みが行われてい
ます。

日本も、これまでに何度も津波の被害を受けてきました。
この経験を生かし、世界の国々の津波災害防止に積極的に
協力しています。



もしも津波が起こったら
どうすればいいニャ？

むかし、日本で大きな津波が起きたときに
たくさんの人の命を救ったという人の物語を
紹介します。

もしも津波が起こったときはどうすればいいか、
しっかり覚えておきましょう。



稲むらの火

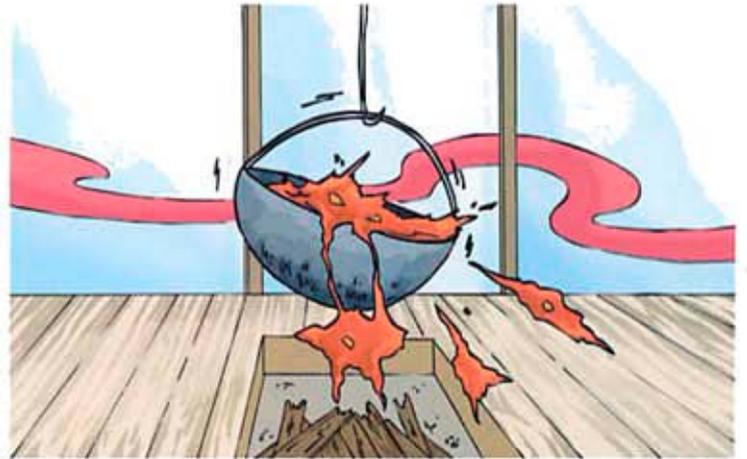
※ 稲むらとは稲の束のこと。

「なんだか様子がいつもと違うぞ」

五兵衛は、高台にある家の外に出て言いました。

先ほど起こった地震は、それほど強いものではありませんでしたが
五兵衛は今までにない、不気味な雰囲気を感じていました。

揺れは長くゆっくりと続き、ごろごろという地鳴りが響いていました。





五兵衛の家の庭からは、海岸沿いの家々が見えます。
庄屋である五兵衛は、村人たちを心配しましたが、
海岸では今夜の祭りの準備でみんな大忙しです。
誰も先ほどの地震には気が付いていないようでした。



五兵衛は村から海へと視線を移すと、その光景に思わずたじろぎました。風は海から海岸に向かって吹いていましたが、海水はものすごい早さで沖に引いていたのです。

みるみるまに、海底の砂と岩がむき出しになっていきました。

「大変だ！津波がやってくるぞ！」

五兵衛は言いました。

「すぐに村人に知らせなくては。村人400人の命が危ない！」



五兵衛は家に駆け込むと、^{たいまつ}松明をつかみ自分の田んぼへと
走りました。田んぼには刈り取ったばかりのたくさんの
稲むらがありました。

「やむをえまい。これでみんなの命を救うことができるんだ」
五兵衛は稲の束をひとつ手に取ると、松明にかざしました。
火は、海からの風にあおられて燃え上がりました。五兵衛は火の
ついた束で、ひとつ、またひとつと、ほかの稲むらにも火をつけ
てまわりました。そうしてすべての稲むらに火をつけ、松明を
捨てると、海を見ながら立ちつくしました。

日はすっかり暮れて、だんだん暗くなってきました。
五兵衛の稲むらの火はますます燃え上がっています。
村人のひとりがお寺のやぐらから燃え上がる火を見つけて、
鐘を鳴らしました。

「五兵衛さんの家が火事だ！」
村人たちは叫びました。



真っ先に若者たちが丘にかけあがってきました。
そして、女の人、お年寄り、子どもたちも続いてやってきました。
五兵衛には、村人たちが丘にかけあがってくるのが、まるでアリの
行列がゆっくりと進んでいるように見え、もどかしく思いながら
見つめていました。



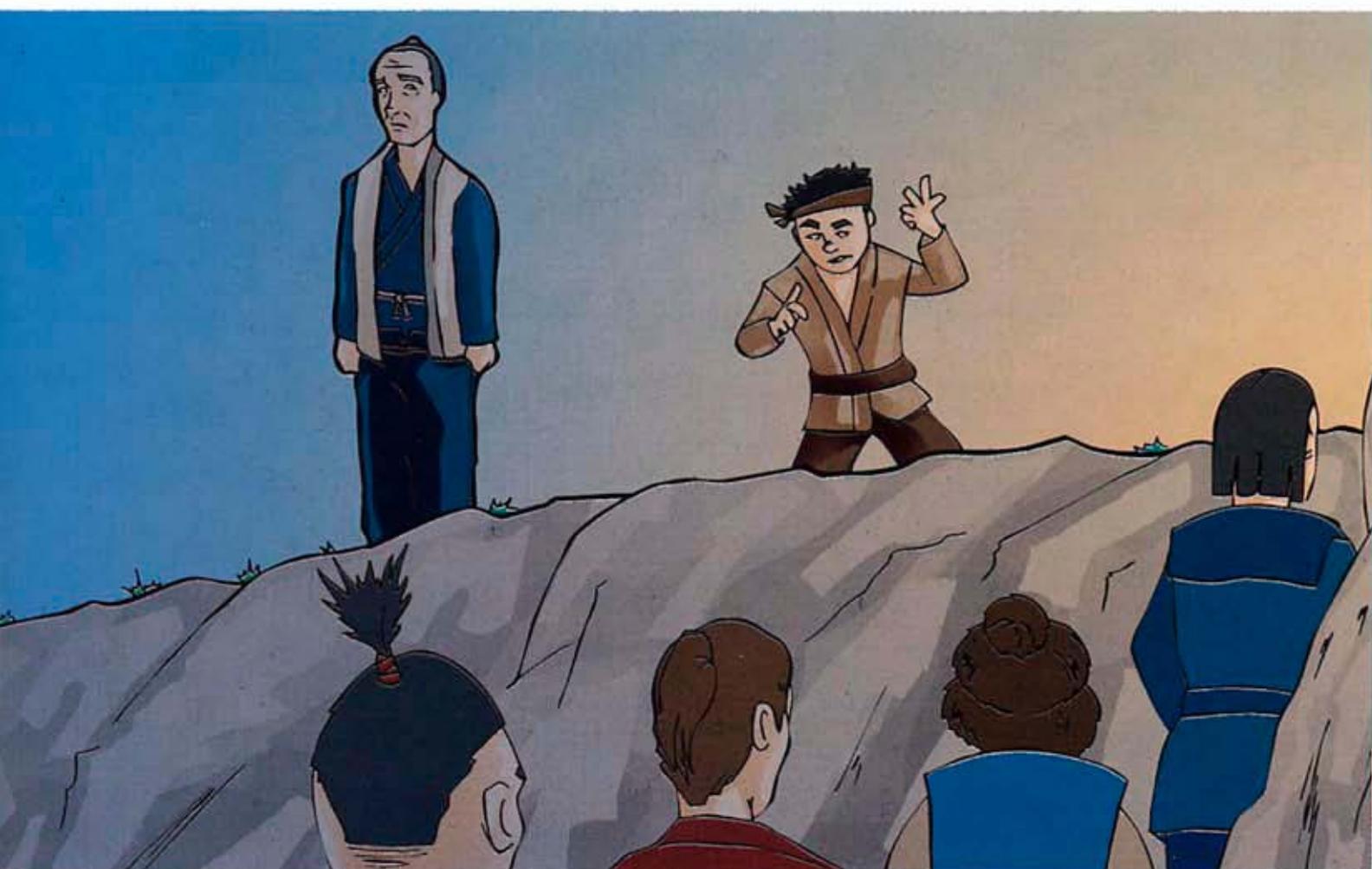
20人ほどの若者たちは、五兵衛の家に着くやいなや、火を消そうとしました。しかし、五兵衛は大きな声で叫びました。

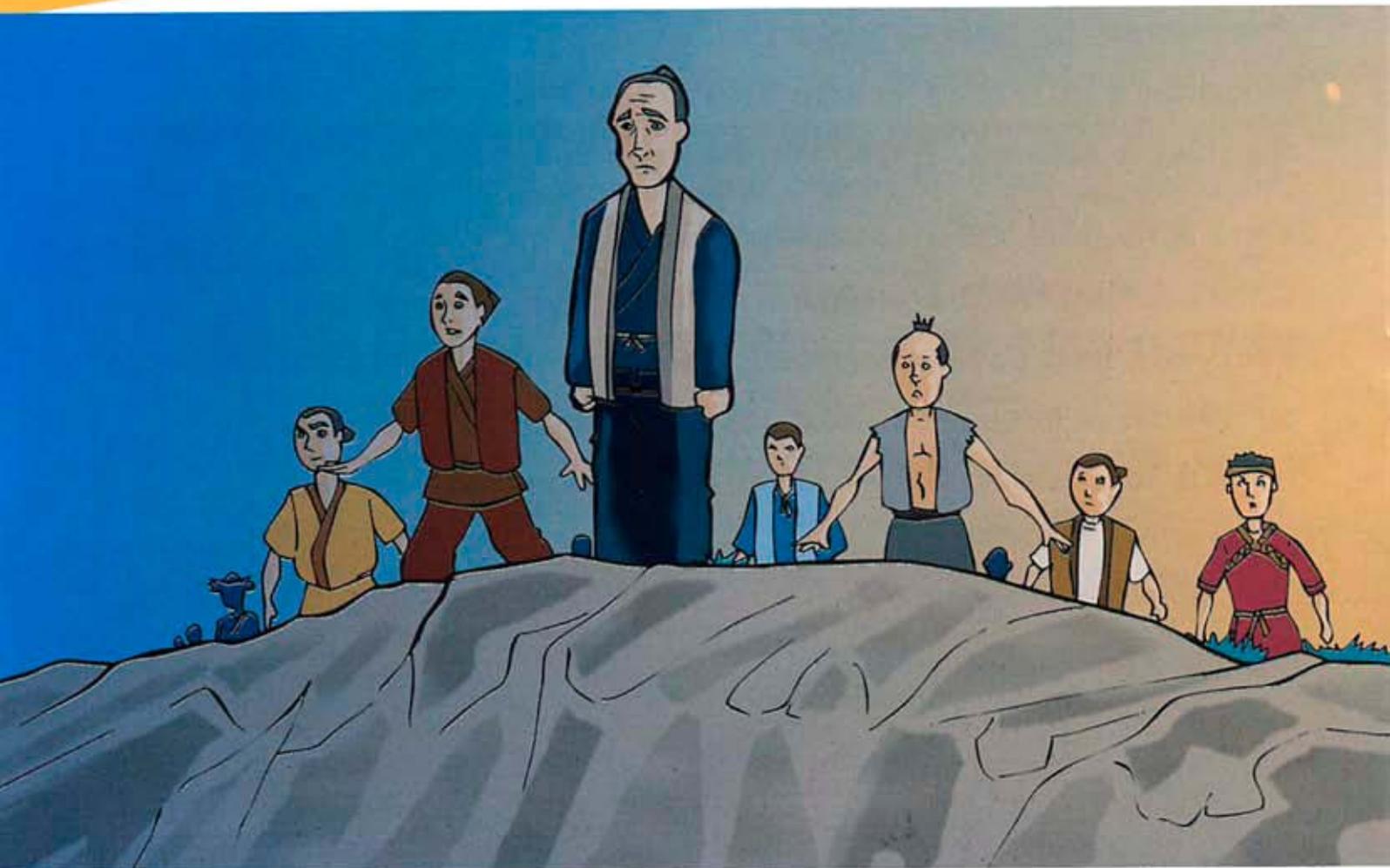
「火はそのままにしておくんだ。たいへんなことが起こった。みんなに急いで丘に上がるように言うんだ！」

村人たちは丘の上へと急ぎました。

五兵衛は村中すべての人がいるか、人数を数えました。

人々は燃え盛る稲むらと五兵衛の顔を不思議そうに見やっていました。





その時です。

五兵衛が海を指差して、ありったけの声で叫びました。

「見ろ！来たぞ！！」

薄明かりのなかで、人々は津波が近づいてくるのを見ました。

遠く水平線の細い線は、どんどん太く長くなり、ものすごい

早さで海岸にむかって迫ってきました。

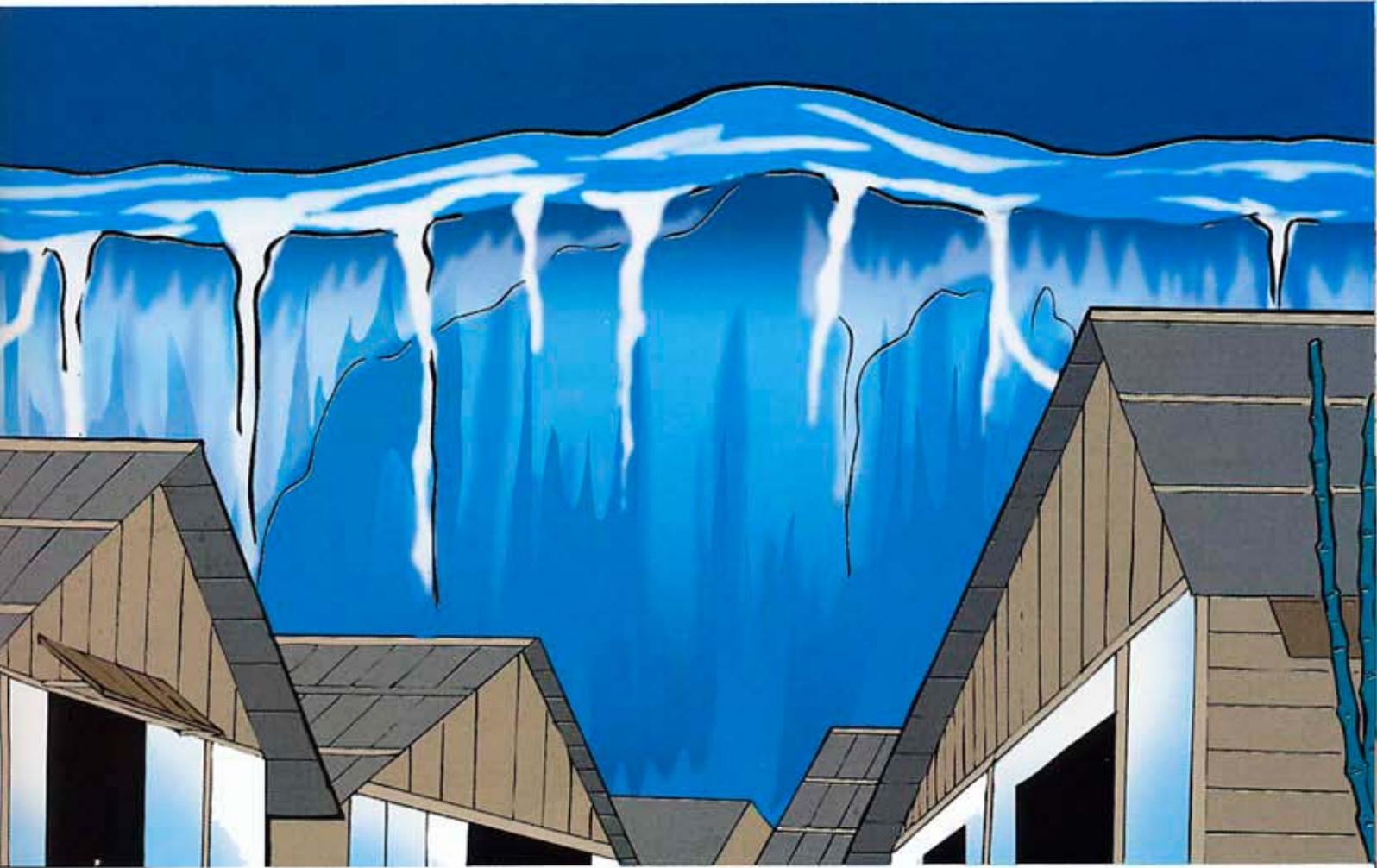
「津波だ！」

誰かが叫びました。

海の水が壁のようにせり上がり、津波は激しい強さと、とどろくような音で陸にぶつかりました。

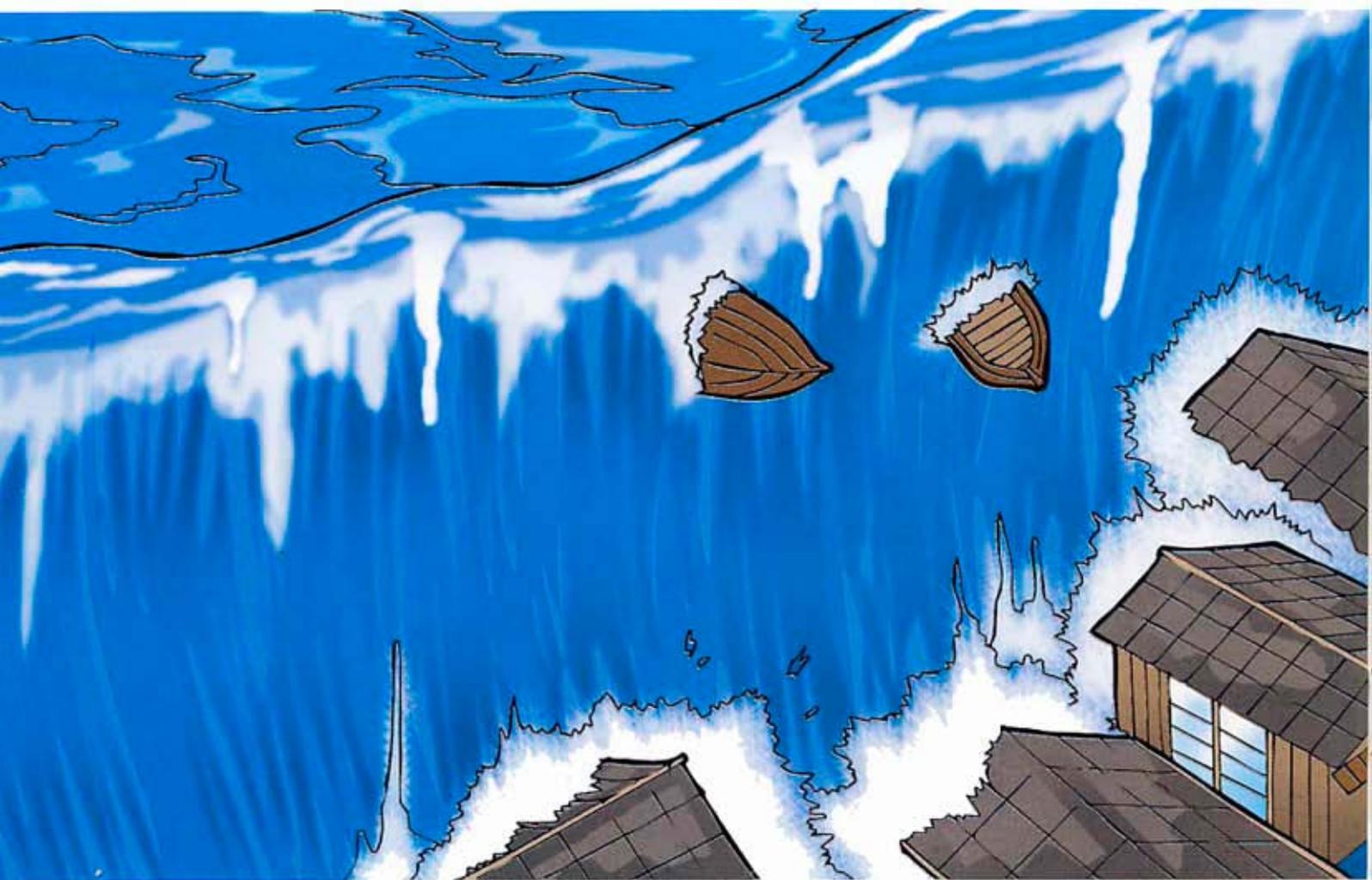
丘の上の人々は、それをぼうぜんと見ていました。

あっという間に丘のふもとの村を破壊していく津波に、なすすべはありませんでした。



五兵衛の読みどおり、津波は丘の上にまではその勢いが届かず、村人たちは雲のようにわきあがった大きな波に飲み込まれずにすんだのでした。

津波は村中をなめるようにすべり、すべてを打ち砕いていきます。水は一度引いたかと思うと、さらに勢いを増してやってきて繰り返し村を襲いました。



村人たちは、しばらくの間、だまりこんでいました。自分たちの家や田畑が流されていくのを、ただ、見つめていることしかできませんでした。

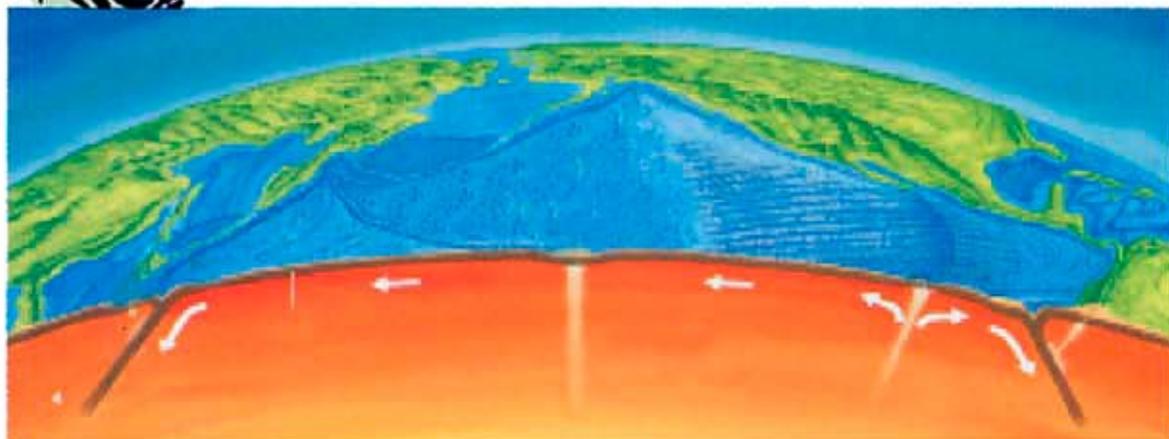
風にあおられて稲むらの炎はさらに燃え上がり、丘を照らしました。村人たちは我にかえり、ようやく稲むらの火の意味を知りました。それは、人々を津波から守るために、五兵衛が放った火だったのです。人々の心に、五兵衛に対する言葉にならない感謝の気持ちがわきあがってきました。



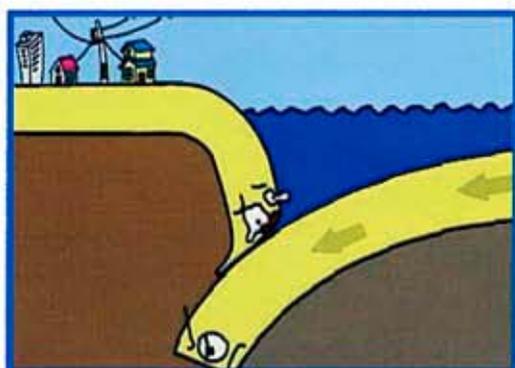
津波ってなあに？



津波はどうやって
起こるのかニャ？



地球の表面は「プレート」という厚い層で覆われています。このプレートのすぐ下には、熱いマグマがあります。プレートは、マグマの動きを受けることによってずれたり動いたりします。



2枚のプレートが重なった場所では、下にもぐりこんでしまうプレートと、上でたわんでしまうプレートがお互いに押しあって無理な力がかかってしまい…



ゆがんだプレートが耐え切れなくなり、跳ね上がって元の位置に戻ろうとします。

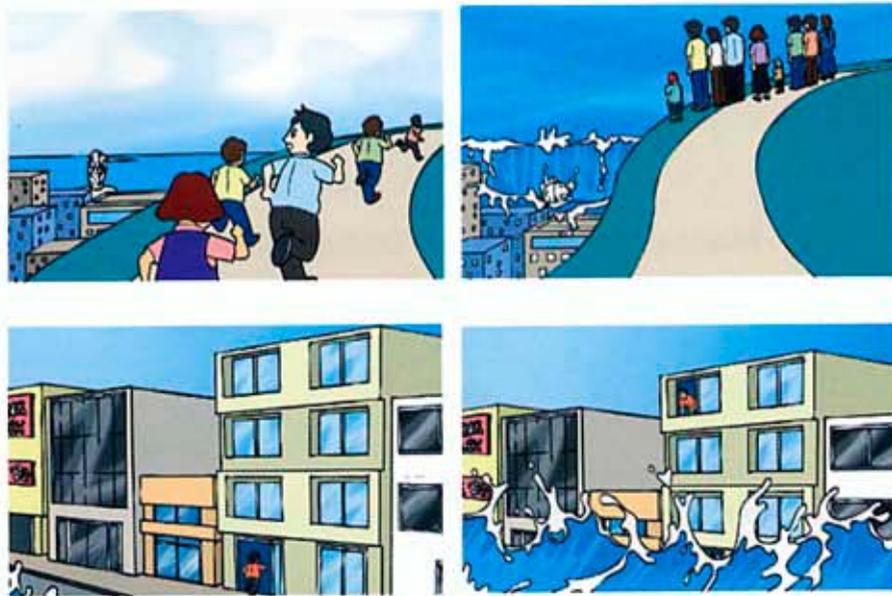
このときの跳ね上がりの振動が、地震の原因となり、津波が引き起こされるもとになるのです。

通常、津波の発生前は海水が沖に引く現象が起こりますが、そうでない場合もあります。



地震を感じたら

すぐに高台へ避難！！



注意

海底深くで地震が起きた場合は、揺れを感じることはほとんどありませんが、津波が発生する可能性があります。

津波は飛行機と同じくらいの速度で迫ってきます！



ふつう、津波は1回以上の大きな波がやってくるんだけど、時間を置いてほかの地域にもくることがあるんだニャ。最初の津波はそんなに大きくないことが多いニャけど、2回目、3回目はぐんと大きくなるんニャって。気をつけてニャ！

—制作・協力—



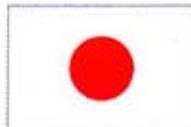
**Malaysian Medical Relief Society
(MERCY Malaysia)**



Asian Disaster Reduction and Response Network (ADRRN)



Asian Disaster Reduction Center (ADRC)



Government of Japan
日本政府



Japan International Cooperation System
財団法人 日本国際協力システム